

## デザインに秘められている思想



んでゆくことを構想した。

ゆえに、すでに邦訳がある

『社会主義』（晶文社、二〇一四

年）のタイトルが示す如く、

モリスの芸術とは抽象的な

「美」にとどまるものではない。

モリスにとって芸術は、同

時に「倫理」でもあった。

その実現のために、他者に

公平であろうとする誠実さと、

欲望を抑えた簡素なくらしが

必要不可欠であると、モリス

は説く。

利己主義と奢侈の対極にあ

る平等と友愛の思想を、彼の

デザインは満たしている。（Y）

『小さな芸術 社会・芸術論集Ⅰ』

ウィリアム・モリス著、川端康雄編訳、

月曜社、二〇二二年一月、三〇八〇円  
（税込）

W・モリスの名は、一九世紀イギリスの「アーツ・アンド・クラフツ運動」と結びついている。

一八世紀末に始まった産業革命は、英国の風景を激変させた。

都市を中心として生態系は破壊され、生活空間も規格化された大量生産物で埋め尽くされた。

この状況に対しモリスは、職人の手仕事を念頭に置きつつ、生活の中に芸術を組み込